

1 学びの県づくり

学びの改革の推進

◆変化の激しい時代に求められる資質・能力を備えた子どもたちを育てるため、幼児期から高校までの各年代での学びの改革を推進

学校での学びにつながる幼児教育の充実 471万7千円(117万円) ⇒ 資料1-3 教育委員会 No.1

幼児教育支援センターを新たに設置し、幼保小の接続カリキュラムの検討に着手、園種を越え現場に立脚した研修を実践

信州の特性を生かした学びの構築 468万8千円(358万6千円) ⇒ 資料1-3 教育委員会 No.2、No.3

- ・変化の激しい社会を生き抜く力を育むため、豊かな自然環境を活用した自然教育・野外教育プログラムを実践
- ・ICTの活用や異年齢集団による探究的な学びなど中山間地域での新しい学びのスタイルを創造

(新) 新しい時代に向けた高校教育への転換 173万4千円 ⇒ 資料1-3 教育委員会 No.4

大学等と連携する探究的な学びや上級学校まで一貫する実践的な産業教育など、先進的な取組を実践する「未来の学校」を指定し、新たな学びの場と学びの仕組みを構築

高校生の海外での学びの推進 3018万1千円(146万8千円) ⇒ 資料1-3 教育委員会 No.6

高校生自身による機運醸成やふるさと信州寄付金(クラウドファンディング型)の活用など、多くの人の参加により、高校生の海外留学(信州つばさプロジェクト)を推進

子どもと保護者のニーズに応える特別支援学校への改革 4398万6千円(2322万8千円) ⇒ 資料1-3 教育委員会 No.7

子どもの可能性を最大限伸ばし、共生社会の実現をリードする特別支援学校の実現に向けた改革を実行

- ・改革を推進するための「カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)」の作成に着手
- ・一人ひとりに合わせて最適な教育を行うため、自立活動担当教諭を増員(25名)し、各校に自立活動チームを組織
- ・特別支援学校の児童生徒と地域の小中学校との交流を進める副学籍コーディネーターの配置
- ・児童生徒の才能を発掘して伸ばすため、スポーツ選手、音楽家、芸術家等の外部専門家による授業を実施

学びの改革を支える教育環境の充実

◆ 学びの改革を着実に進めるため、ICT機器など時代に即した教育のために必要な環境を整備するとともに、教員が児童生徒と向き合い、質の高い授業づくりに専念できるよう働き方改革を推進

県立高校におけるICT環境の整備 4億7429万9千円(4億4354万3千円) ⇒ 資料1-3 教育委員会 No.5

課題解決能力や論理的思考力を育む「探究的な学び」に必要な電子黒板等のICT機器を2020年度までに全ての普通教室に整備

学校における働き方改革の推進 1億2425万3千円(9708万7千円) ⇒ 資料1-3 教育委員会 No.9、No.10

- ・授業以外の諸業務を補助するスクール・サポート・スタッフを一定規模以上の小・中学校に配置 (102校 → 121校)
- ・教員と連携して部活動の指導等を行う部活動指導員の中学校への配置を支援 (109人 → 161人)

私立学校の教育環境向上を図るため、私立幼稚園運営費等の私学助成を充実

99億2305万7千円(93億1508万8千円) ⇒ 資料1-3 県民文化部 No.2

生涯にわたり学び続けられる環境の整備

◆ 誰もが生涯にわたって学ぶことを楽しみ、変化の激しい時代に必要な創造力を身に付けられるようにするため、教え合い学び合う様々な学びの機会を充実

消費者大学、長野県ウィメンズカレッジ、シニア大学、信州環境カレッジなど様々な学びの機会を提供

9208万8千円(8058万8千円) ⇒ 資料1-3 県民文化部 No.12の一部、No.13の一部、健康福祉部 No.28の一部、環境部 No.1

学び合いから価値を創造し、アイデアを形にする「信州・学び創造ラボ」を県立長野図書館で本格稼働

1751万6千円(6073万5千円) ⇒ 資料1-3 教育委員会 No.13の一部

関係機関等が保有する信州に関する史資料情報等を横断検索できる「信州・知の入口」ポータルを構築

197万2千円(87万7千円) ⇒ 資料1-3 教育委員会 No.13の一部